

## (1) 学部・学科の概要と履修コース

### 1. 情報メディア学部 カリキュラム編成の考え方について

#### ◆2013年度入学生～

情報メディア学部情報メディア学科では、進展する情報化社会の中で必要不可欠な存在となっているICT(情報通信)基盤技術分野、この基盤の上で動作する多種多様なシステムの構築、およびインターネット上で社会が共有すべきデジタルコンテンツの創造と制作に関する分野の専門的な知識と技術を学習します。幅広い分野を体系的に学べるように、メディアデザインとメディアテクノロジーの二つの専攻を設置しています。

メディアデザイン専攻では、映像、動画、画像、音声などで表現されたデジタルコンテンツを制作するのに必要な知識、手法、技術を習得します。

メディアテクノロジー専攻では、映像、動画、音声などのデジタルコンテンツを体系的にコンピュータに格納し、それらを必要に応じて高速に検索・加工するための知識と技術、およびこのようなコンテンツをインターネット上で共有するために必要な技術を習得します。

上記の学習目標を実現するために、情報メディア学部のカリキュラムは下記の特徴を備えています。

- (a) 授業科目には、教養科目と専門科目があります。
- (b) 教養科目は、メディアデザインとメディアテクノロジー専攻に共通です。
- (c) 各専攻のカリキュラムは、それぞれの目標を達成するために必要な独自の科目体系で構成されています。さらに、将来就きたい職業あるいは学びたい専門領域に対応した履修モデルとして、メディアデザイン専攻では4コース、メディアテクノロジー専攻では5コースが設定されています。また、所属する専攻とは異なる専攻の科目も一部選択することができます。
- (d) 4年間を通して、少人数のゼミナール形式科目や講義を配置し、コミュニケーション力を伸ばすこと、個性と能力に応じたスキルアップと研究活動に取り組むことを目指しています。

選択科目が多いため、履修科目に迷うこともあると思います。オリエンテーションやガイダンスなどの説明会には必ず出席して説明を聞いてください。

単位  
制度

授

業

カリ  
キュ  
ラム履  
修  
登  
録成 試  
験  
お  
よ  
び  
績卒 進  
級  
お  
よ  
び  
業教  
職  
課  
程留  
意  
事  
項  
の  
他履 教  
修 育  
コ 課  
ー ス 程  
の 要  
要 要科 卒  
目 業  
と に  
修 必  
単 要  
位 履  
修一 授  
覧 業  
表 科  
目 目科 年  
目 次  
一 配  
覧 当  
表に 科  
つ 目  
い 読  
て 替  
え

◆2011年度入学生～

情報メディア学部情報メディア学科では、進展する情報化社会の中で必要不可欠な存在となっているICT(情報通信)基盤技術分野、この基盤の上で動作する多種多様なシステムの構築、およびインターネット上で社会が共有すべきデジタルコンテンツの創造と制作に関する分野の専門的な知識と技術を学習します。幅広い分野を体系的に学べるように、メディアデザインとメディアテクノロジーの二つの専攻を設置しています。

メディアデザイン専攻では、映像、動画像、画像、音声などで表現されたデジタルコンテンツを制作するのに必要な知識、手法、技術を習得します。

メディアテクノロジー専攻では、映像、動画像、音声などのデジタルコンテンツを体系的にコンピュータに格納し、それらを必要に応じて高速に検索・加工するための知識と技術、およびこのようなコンテンツをインターネット上で共有するために必要な技術を習得します。

上記の学習目標を実現するために、情報メディア学部のカリキュラムは下記の特徴を備えています。

- (a) 授業科目には、教養科目と専門科目があります。
- (b) 教養科目は、メディアデザインとメディアテクノロジー専攻共に共通です。
- (c) 各専攻のカリキュラムは、それぞれの目標を達成するために必要な独自の科目体系で構成されています。さらに、将来就きたい職業あるいは学びたい専門領域に対応した履修モデルとして、デザイン専攻とテクノロジー専攻でそれぞれ4コースが設定されています。また、所属する専攻とは異なる専攻の科目も一部選択することができます。
- (d) 4年間を通して、少人数のゼミナール形式科目や講義を配置し、コミュニケーション力を伸ばすこと、個性と能力に応じたスキルアップと研究活動に取り組むことを目指しています。

選択科目が多いため、履修科目に迷うこともあると思います。オリエンテーションやガイダンスなどの説明会には必ず出席して説明を聞いてください。

単位制度  
授業  
カリキュラム  
履修登録  
試験および成績  
卒業および進級  
教職課程  
その他の事項  
教育学部・学科の概要  
卒業に必要な履修科目と修得単位  
授業科目  
科目一覧表  
科目読み替

## ◆2009～2010年度入学生

情報メディア学部情報メディア学科では、進展する情報化社会の中で必要不可欠な存在となっている ICT（情報通信）基盤技術分野、この基盤の上で動作する多種多様なシステムの構築、およびインターネット上で社会が共有すべきデジタルコンテンツの創造と制作に関する分野の専門的な知識と技術を学習します。幅広い分野を体系的に学べるように、メディアデザインとメディアテクノロジーの二つの専攻を設置しています。

メディアデザイン専攻では、映像、動画像、画像、音声などで表現されたデジタルコンテンツを制作するのに必要な知識、手法、技術を習得します。

メディアテクノロジー専攻では、映像、動画像、音声などのデジタルコンテンツを体系的にコンピュータに格納し、それらを必要に応じて高速に検索・加工するための知識と技術、およびこのようなコンテンツをインターネット上で共有するために必要な技術を習得します。上記の学習目標を実現するために、情報メディア学部のカリキュラムは下記の特徴を備えています。

- (a) 授業科目には、教養科目と専門科目があります。
- (b) 教養科目は、メディアデザインとメディアテクノロジー専攻共に共通です。
- (c) 各専攻のカリキュラムは、それぞれの目標を達成するために必要な独自の科目体系で構成されています。さらに、将来就きたい職業あるいは学びたい専門領域に対応した履修モデルとして、デザイン専攻では5コース、テクノロジー専攻では4コースが設定されています。また、所属する専攻とは異なる専攻の科目も一部選択することができます。
- (d) 4年間を通して、少人数のゼミナール形式科目や講義を配置し、コミュニケーション力を伸ばすこと、個性と能力に応じたスキルアップと研究活動に取り組むことを目指しています。

選択科目が多いため、履修科目に迷うこともあると思います。オリエンテーションやガイダンスなどの説明会には必ず出席して説明を聞いてください。

単位  
制度

授

業

カリ  
キュ  
ラム履  
修  
登  
録成 試  
験  
お  
よ  
び績  
進  
級  
お  
よ  
び業  
教  
職  
課  
程留  
意  
事  
項学 教  
部 育  
・ 学 課  
科 の 程  
履 修  
コ ー  
ス 要卒  
業  
に  
必  
要  
な  
履  
修  
科  
目  
と  
修  
得  
単  
位一 授  
業  
科  
目  
表科 年  
目 次  
一 配  
覧 当  
表に 科  
目 目  
替  
え  
つ  
い  
て

## 2.

## 共通教育

## ◆2011年度入学生～

皆さんはこの大学でそれぞれの学科の専門教育を受けます。多くの人はそれを土台として社会に出て給料や報酬などをもらい、生活していくこととなります。職業人として社会で働いていくには、専門教育の知識がとても大切となります。しかし、一人前の社会人になるためには専門教育の知識だけでは不十分です。共通教育は、社会人としてだれにでも必要とされる基礎的な知識や幅広い知識、そしてなによりも様々な問題を考える力の基礎を身につけるために行われています。そして、これらを身につけることで、皆さんの人生を深く豊かにすることができます。共通教育と専門教育をバランスよく受けることで、一人前の社会人としての基礎力を身につけるとともに、知識に彩られた実りある人生を送るための準備をしてください。

共通教育がなぜ必要なのか、もう少し詳しく説明することにします。まず、社会にでるにあたっては、自分自身をよく見つめ、自分の心身を理解し大切にすることが大事です。しかし他方で、私たちは一人では生きていけません。自分の周りで起きていることに関心をもつことが求められます。自分を含めて人を愛し、そして社会とその中で生きる様々な人が直面している問題に関心をもつことが大切です。世の中には、身体の不自由な人、病気の人、戦争で苦しんでいる人もたくさんおります。また、空気や水の汚染、地球の温暖化などの環境問題、人口増加や逆に少子化の問題、遺伝子操作技術の発展によってもたらされた生命の本質を問う問題、南北間の経済格差による貧困問題など、実にたくさん問題があります。このような問題は世の中の進展や社会全体の動きと密接に関連していて、個人の問題としておさまるものではなく、一人の力では到底解決できないものです。こうした問題の解決にあたっては、幅広い視野と倫理観、そして物事を科学的、論理的に考える力が必要になってきます。

人類は科学技術の発展とともに進歩してきました。しかし進んだ科学技術は常に正しく使われてきたわけではありません。核兵器や化学・生物兵器の使用のように人類を存亡の危機に陥れることもあります。また現在では、インターネット上にあふれる膨大な情報に振り回されています。科学技術や情報を有効に活用するためには、高度な倫理感覚と判断力、そして情報の価値を見出す能力が欠かせません。

世界の様々な人種・民族は、多様な文化の中で暮らしています。皆さんは、日本や日本人について考えたことがあるでしょうか。日本の文化や歴史を学び、自らの立ち位置を自覚しつつ、世界の様々な文化や価値観に目を向ける姿勢も必要です。

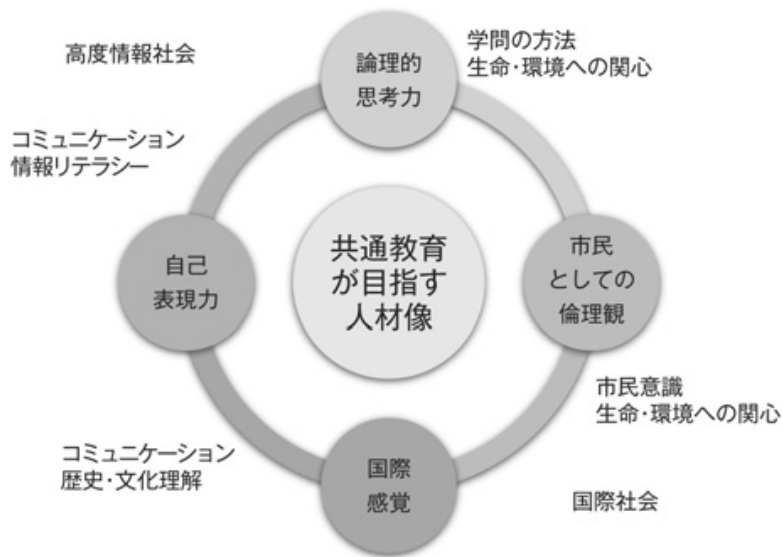
ここまで説明したことは、共通教育で行われる「教養教育」で皆さんが学ぶことです。それは、一言でいえば人間教育にほかなりません。それは、自分自身をよく理解するとともに、私たちが生きる世界を理解することから始まります。

一方、共通教育では、「教養教育」や専門教育の基礎となる学力をつけてもらうための「基礎教育」も行われています。「基礎教育」では、文章を読む力、様々な方法で自分の考えを表現する力、相手の意見や気持ちを理解する力、文献や資料を調べる力、基礎的な数学力、国際人として必要な外国語力などを培いましょう。

高度情報社会において、情報の意味や価値を見出す能力の育成を目指す共通教育は、情報の専門知識・技術の習得を目指す専門教育と相互に補いながら、皆さんの総合的な情報を見極める力・人

間力の育成を目指しています。

皆さんが共通教育の学習で目指す人材像を図解すると次の図のようになります。



★共通教育が目指す人材像とコンピテンシー

共通教育では、「論理的思考力」、「市民としての倫理観」、「国際感覚」、「自己表現力」を備えた人材の育成を目指しています。これらの人間的資質は、皆さんが未来の社会を担うのに必要な資質と考えられます。この図にある4つの円は、人材像のこれらの特徴を表しています。これらの円の周りに書かれているのは、人材像の4つの特徴を実現するために皆さんが身につけるコンピテンシーです。コンピテンシーとは、皆さんがそれぞれの科目で学ぶ知識やスキルを総合的に活用する能力のことです。この講義概要には、各科目で学ぶ内容について詳しく説明されていますが、その科目に関連するコンピテンシーも書かれています。よく読んで、皆さんが何を目標として学習するのか理解してください。

様々な科目の学習を通して、これらの点に配慮しながら自己の視野を広げ、人間的にも成長したといえるようになってほしいと願っています。

次に、共通科目の履修方法について説明します。

授業科目一覧表に、「授業科目の名称」、「授業を行う年次」、「単位数」が記されています。卒業までに、共通教育科目はあわせて47単位以上修得しなければなりません。履修にあたっては「備考」に記されている「必修」の科目あるいは「選択必修」の科目（合計で25単位）を必ず含める必要があります。「必修」科目とは、【基礎教育科目】では、「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」「ビギナーズセミナーⅠ」「ビギナーズセミナーⅡ」などがあてはまります。「選択必修」科目とは、外国語のなかで必修科目以外の6単位を『初修外国語』（2単位まで）か『英語』（4単位以上6単位まで）の選択科目（留学生は『日本語』）から修得するというように、いくつかある科目から選んで一定の単位を修得しなければなりません。

単位制度

授

業

カリキュラム

履修登録

成績  
試験および  
成績

卒業  
進級および  
卒業

教職課程

その他の  
留意事項

教育課程  
学部・学科の  
履修コース

卒業に必要な履修  
科目と修得単位

一 授業科目  
覧表

科目  
年次  
一覧表  
配当

科目  
読み替え  
について

「必修」「選択必修」以外の科目が「選択」科目です。「選択」科目では、【人間教育科目】の「人間」「社会」「自然」の3分野からそれぞれ1科目以上選択し、合計で18単位以上修得しなければならないという条件があります。【人間教育科目】の一定の科目は専門の基礎科目にもなっています。後で紹介しますが、学科の推奨科目があるので、それを中心に単位を修得してください。

つづいて、どのような共通教育科目があるのか、紹介することにしましょう。

### 基礎教育科目

1) 『教養基礎』 大学生としての国語、数学、英語などの基礎を勉強します。これらはいわば「大学での学び」の土台作りをする科目です。1年次の間に大学生としての学びの基礎を固める覚悟で臨んでください。

例 「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」

原稿用紙の使い方やレポートの書き方から、文章の書き方、まとめ方などを勉強します。

「基礎数学」「基礎数学演習」

専門に必要な数学の基礎を学習します。

「ビギナーズセミナーⅠ・Ⅱ」

社会が学生に求める基本的な知識を習得し、判断力を磨きます。「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」と一部重なりますが、レポートの書き方や発表の仕方、ディスカッション（討論）の仕方を学び、社会人として必要な人間性や社会性の涵養を図ります。

2) 『外国語』 語学力をみがくと同時に、異文化理解を通して国際感覚を養います。

例 「英語表現Ⅰ・Ⅱ」

英語のレベルアップを目指します。本学には英語を母国語とする先生も比較的多くいます。eラーニングでの文法力の確認や文章を読む練習をする一方で、会話力をつけることを目指します。

「初修外国語Ⅰ」

中国語Ⅰ、ドイツ語Ⅰ、ロシア語Ⅰの中からどれか一つを選択します。

新しい語学を勉強するということは、辛抱して訓練に耐える力を養うことにもなります。世界には様々な文化や考え方があり、いろいろな民族が暮らしていることをしっかり学んで下さい。

大学4年間を通じて語学力の向上を図ってください。

### 人間教育科目

1) 『情報』

高度情報社会であふれる膨大な情報から価値ある情報を見出し、主体的に利活用するのは簡単ではありません。「情報の世界」では、価値ある情報の見出し方やそれらを主体的に利活用する方法を学びます。また、氾濫する情報の扱い方を間違えると、個人の人生や社会システムが大きく影響を受けます。新科目として開講する「情報倫理」では、情報が個人や社会に与える影響や情報への接し方を学びます。

2) 『人間』

人類がつくりあげた文化や歴史を学びます。文学、絵画、音楽は人の心の豊かさや奥深さを培ってきました。心理学や哲学は、これらとは異なる視点から論理的に人の心や体の有様やそれらの

関わりについて考えます。歴史を学ぶことはとても大事です。人はしばしば同じ間違いを繰り返します。人類が試行錯誤してきた過去を学び、いまの自分の立ち位置を確認するとともに、未来の進むべき方向を考えましょう。「文化人類学」「文学」「心理学」「哲学」「倫理学」「歴史学」は、その案内役となります。

### 3) 『社会』

人は一人で生きられるものではなく、多くの人々が互いに協力して生きています。そのような協力し合う仕組みとして、人類は社会というシステムを発明しました。地域社会、日本の社会、そして国際社会など、世界は様々な社会システムの関わりから成り立っています。法律、金融、経済などはそのような社会システムを支える重要な要素です。これらを学ぶことは、社会人の基本です。「法学」「経済学」「社会学」「憲法」「外国地域論」を導き手として、世界を取り巻くよりダイナミックな問題や現象について考えてみましょう。

### 4) 『自然』

数学や自然科学は人類の文明を高度に発展させる原動力になったものです。数学は、あらゆる学問分野で使われる重要な道具です。また、数学の知識を学ぶこと自体が芸術鑑賞と同様な感動を引き起こすこともあります。物理学や生物学も同様です。様々な学問の基礎知識であるとともに、それらの知識自体が宇宙や自然界に対する知的好奇心を満足させてくれます。生物学や健康科学を学ぶことは、『人間』分野で文化や歴史を通して人間について学ぶことと表裏の関係になっています。「生物学」「微分積分」「線形代数」「確率・統計」「物理学」「健康科学」を学び、自然の世界と結びついた知的な旅を楽しんでください。

### 5) 『総合』

#### ① 「健康とスポーツ」

ソフトボール、卓球、バドミントンなど、実際にスポーツ実技を行い、運動能力の維持向上と生涯スポーツへの理解を図るとともに、協調性や社会人としてのルール・マナーなどを体験的に学びます。

#### ② 「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

人生設計について学ぶ必修科目です。就職にあたっては「大学で学んだことをどのような分野で生かすことができるのか」を漠然と問うのではなく、自己の職業適性を知り、社会が今どのような人材を求めているのかについての正確な情報を収集する必要があります。そのうえで希望する職業につく準備をしなければなりません。この科目では、職業適性テストの実施や人生の先輩や企業人の講演を聞く機会、キャリアアップ実践指導などを通じて、人生設計と社会人になるための準備について学びます。

#### ③ 「海外事情」

夏休みなど長期休暇期間に、アメリカや中国の大学で英語や中国語の短期間の語学研修を行い、語学の上達だけでなく、異文化の理解や人間的・社会的な視野の拡大に努めます。

#### ④ 国際コラボレーション

タイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校（RMUTT）への短期海外留学を含む国際交流科目です。履修者は、学内で行われるWEBデザインコンテスト（WDC）受賞作品の制作者から選抜され、学内で事前に行われる講義・演習を受講したのち、8月から9月にかけて本学とRMUTTを会場として行われる一連のWEB制作ワークショップに参加します。ワークショップでは、RMUTTの学生とグループをつくり、共同でWEB作品を制作します。

単位制度  
授業  
カリキュラム

履修登録

成績  
試験および卒業  
進級および

教職課程

留意事項  
その他の履修  
学部・学科の  
概要科目と  
修得単位  
卒業に  
必要な履修一授  
業科  
目表科目  
一覧表  
年次  
配当に科  
目読  
み替  
え

## ⑤ 「教養特別講義」

共通教育のカリキュラムにはない教養教育の題材について、適宜取り上げていきます。情報、人間、社会、自然など、様々な分野の題材を取り上げます。

## 学科推奨科目

最後に、人間教育科目の中には内容の上で専門科目に密接に関連した科目があります。それらをここでは【学科推奨科目】と呼びます。専門に隣接した領域の科目を学ぶことで、専門の視野を広げることができます。

情報メディア学科では、デザインと関連の深い『人間』の領域の「芸術論」と「芸術論演習」、テクノロジーと関連の深い『自然』の領域の「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」「確率・統計Ⅰ」「確率・統計Ⅱ」という数学関係の科目と「物理学Ⅰ」「物理学Ⅱ」が、学科推奨科目となっています。皆さんは、これらをよりよく学び、専門科目をさらに深く学ぶ基礎を築いてほしいと思います。

単位制度

授

業

カリキュラム

履修登録

成績

卒業

教職課程

留意事項

学部・学科の概要

卒業に必要な履修科目と修得単位

一 授業科目

科目一覧表

科目読み替



## 平成23年度カリキュラム～共通教育 人材像とコンピテンシー

共通教育（教養教育）	
①人材像	
(a)	物事を幅広い視点からとらえ、論理的思考力を備えた人材
(b)	市民としての倫理観と自覚をもち、社会に貢献できる人材
(c)	異文化を理解し、国際感覚にすぐれた人材
(d)	情報社会において必要とされる豊かな自己表現力を備えた人材
②コンピテンシー	
A	学問の方法を学び、批判的・論理的に考え、問題解決に生かすことができる。
B	生命や環境保全の重要性を理解するとともに、自他の健康に対して配慮することができる。
C	人類の歴史や文化の多様性を認めるとともに、その担い手としての自覚をもつことができる。
D	情報リテラシーを十分に備え、自己の創造力・判断力を発揮できる。
E	コミュニケーションの重要性を自覚し、社会生活への展望をもつことができる。

単位制度

授

業

カリキュラム

履修登録

成績  
試験および  
成績卒業  
進級および  
業

教職課程

その他の  
留意事項教育課程  
学部・学科の  
履修コース  
概要卒業に  
必要な履修  
科目と  
修得単位授業科目  
一覧表年次  
科目  
一覧表  
配当科目  
読み替え  
について

## 平成23年度カリキュラム～情報メディア学科共通教育 コンピテンシー・科目関連マップ

	科目名	配当 年次	開講 学期	単位数		A	B	C	D	E	
				必修	選択						
基礎 教育 科目	教養基礎	日本語表現Ⅰ	1	前期	2					○	
		日本語表現Ⅱ	1	後期		2					○
		基礎数学	1	前期	2		○				
		基礎数学演習	1	前期	2		○				
		ビギナーズセミナーⅠ	1	前期	2		○			○	○
		ビギナーズセミナーⅡ	1	後期	2		○			○	○
	外国語	基礎英語	1	通年	2				○		○
		英語表現Ⅰ	1	通年	2				○		○
		実用英語	2	通年		2			○		○
		英語表現Ⅱ	2	通年		2			○		○
		職業英語	3・4	通年		2			○		○
		専門英語	3・4	通年		2			○		○
		初修外国語Ⅰ	1	通年	2						
		中国語Ⅰ	1	通年	2				○		○
		ドイツ語Ⅰ	1	通年	2				○		○
		ロシア語Ⅰ	1	通年	2				○		○
		初修外国語Ⅱ	2	通年		2					
		中国語Ⅱ	2	通年		2			○		○
		ドイツ語Ⅱ	2	通年		2			○		○
		ロシア語Ⅱ	2	通年		2			○		○
		初修外国語Ⅲ	3	通年		2					
		中国語Ⅲ	3	通年		2			○		○
		ドイツ語Ⅲ	3	通年		2			○		○
		ロシア語Ⅲ	3	通年		2			○		○
	日本語Ⅰ（留学生）	1	前期	2				○		○	
	日本語Ⅱ（留学生）	1	前期	2				○		○	
	日本語Ⅲ（留学生）	1	後期		2			○		○	
日本語Ⅳ（留学生）	1	後期		2			○		○		
日本語Ⅴ（留学生）	2	前期	2				○		○		
日本語Ⅵ（留学生）	2	後期		2			○		○		

単位制度 | 授 | 業 | カリキュラム | 履修登録 | 試験および | 卒業 | 進級および | 業 | 教職課程 | その他の | 留意事項 | 学部・学 | 履修課 | 卒業に必要 | 科目の修得 | 一覽表 | 授業科目 | 年次配当 | 科目表 | 科目表 | 科目表 | 科目表

人間 教育 科目	情報	情報の世界	1	後期	2					○		
		情報倫理	2	後期	2					○		
	人間	芸術論	1	前期		2				○		
		芸術演習	2	前期		2				○		
		倫理学	2	前期		2	○			○		
		心理学Ⅰ	2	前期		2		○		○		○
		心理学Ⅱ	2	後期		2			○	○		○
		文化人類学Ⅰ	2	前期		2				○		
		文化人類学Ⅱ	2	後期		2				○		
		文学Ⅰ	2	後期		2				○		
		文学Ⅱ	3・4	前期		2				○		
		歴史学Ⅰ	2	後期		2	○			○		
		歴史学Ⅱ	3・4	前期		2	○			○		
	哲学	3・4	後期		2	○			○			
	社会	法学Ⅰ	1	前期		2	○					
		法学Ⅱ	1	後期		2	○					
		経済学Ⅰ	1	前期		2	○					
		経済学Ⅱ	1	後期		2	○					
		社会学Ⅰ	2	前期		2	○			○		
		社会学Ⅱ	2	後期		2	○			○		
		憲法	2	前期		2	○			○		
		外国地域論	3・4	後期		2	○			○		
		国際関係論	3・4	後期		2	○			○		○
	自然	微分積分Ⅰ	1	後期		2	○					
		線形代数Ⅰ	1	後期		2	○					
		微分積分Ⅱ	2	前期		2	○					
		線形代数Ⅱ	2	前期		2	○					
		確率・統計Ⅰ	2	前期		2	○					
		確率・統計Ⅱ	2	後期		2	○					
		物理学Ⅰ	2	前期		2	○					
		物理学Ⅱ	2	後期		2	○					
		健康科学	2	前期		2			○			
		生物学Ⅰ	3・4	前期		2	○		○	○		
	生物学Ⅱ	3・4	後期		2	○		○	○			
	総合	健康とスポーツⅠ	1	前期		1			○	○		
		健康とスポーツⅡ	1	後期		1			○	○		
		健康とスポーツⅢ (夏期集中)	1	夏		1			○	○		
		健康とスポーツⅣ (冬期集中)	1	冬		1			○	○		
		キャリアデザインⅠ	2	前期	1							○
		キャリアデザインⅡ	2	後期	1							○
		キャリアデザインⅢ	3	前期	1							○
		海外事情 (2012年度入学生まで)	1234	夏冬		2				○		
海外事情 (アメリカ編) (2013年度入学生から)		1234	夏冬		2				○			
海外事情 (中国編) (2013年度入学生から)		1234	夏冬		2				○			
国際コラボレーション		1234	夏冬		2				○			
教養特別講義	3・4	後期		2		○						
日本事情Ⅰ (留学生)	3・4	前期		2				○		○		
日本事情Ⅱ (留学生)	3・4	後期		2				○		○		

単位制度 | 授 | 業 | カリキュム | 履修登録 | 試験および成績 | 卒業および進級 | 教職課程 | 留意事項 | その他 | 学部・学科 | 授業 | 卒業に必要な履修 | 授業科目 | 一覧表 | 年次配当 | 科目一覧表 | 科目読覧について